

「大切な命」

宝田小学校 四年 麻生 柚菜

あそう ゆずな
(敬称略)

ニュースで、たった一言のいじめがきっかけで命をなくした子の話を見ました。その子は、毎日つらかったのにだれにも言えなかったそうです。わたしも、何げない一言を言われて学校に行きたくなるほどショックを受けたことがあります。心に穴が開いたように心がいたくなったり、なみだが止まらなくなりました。周りから見たら小さなことかもしれないけれど、言われた方はずっと心に残ります。いじめは、人の心をきずつけ、時には命をうばってしまうことがあるので、ぜったいにしてはいけないことだと思います。道徳の時間に、「命の大切さ」の学習をして、より強く思うようになりました。命は、一つしかありません。人の心もとても大切です。

たいたいたりけったりするぼう力だけでなく、わざと話しかけなかったり、むししたり、仲間はずしをしたりするのもいじめです。小さなことでもつまかさなると、される方にとってはとてもつらく、毎日が楽しくなくなっています。

いじめられている人は心の中で、「気づいてほしい。」と思っているのに、周りの人に言えないまま、暗い顔をしているかもしれない。そんな時に気づいて行動することが大切です。

わたしのときは、先生にそうだんしたり、友だちのやさしい言葉にはげまされたり、友だちといっしょにいたりすることで心が温かくなりました。こんな行動がいじめを止める力になるように思います。周りの人の様子や顔色に気をつけて、「だいじょうぶ。」「なにかできることある。」といった言葉をかけて、困っている人の味方になりたいです。

いじめはどうしておきるのでしょうか。むしやくしゃやして、八つ当たりしてしまうのでしょうか。それとも、ふざけていたり、人たちが言葉や行動を笑ったり、じょうだんだと思っ、いじめているとわかっていないのかもしれない。でも、いじめと思わずに人が悲しむことをしているのを、わたしはゆるせません。一人一人が大切なのに。

わたしたちは、一人一人ちがいます。顔もちがうし、せいべつもちがうし、すきなものやきらいなものもちがうし、考え方もちがいます。世界からみたら、国や生まれた場所もちがいます。ちがって、当たり前のこと

す。ちがうことを、ばかにしたり、からかったりするのとはとてもおかしいことです。人とちがうことは悪いことではなく、むしろその人のこせいとしてみとめていくことで、仲間として協力できるきずなが生まれれると思います。

人や自分を大切にしていじめをせず、いじめを見つけたら先生や家族にそうだんしていききたいです。そして、思いやりの心をもって、話す言葉や行動にも気をつけていききたいです。

これからも、「いじめのない学校」「やさしい気持ちを大切にできるクラス」をみんなで作っていききたいです。